２０２０年度　事業計画

公益財団法人　日本ハンドボール協会

［概況］

2020 年度は、東京オリンピック・パラリンピック（オリンピック：7/24～8/9、パラリンピック：8/25～9/6、以下・東京 2020）が東京都内の各会場（ハンドボール競技は 7/25～8/9 に国立代々木競技場）を中心に開催される。また開催前の事前キャンプも多数日本国内各地で予定されており、ハンドボール競技が注目される絶好の機会となっている。

一方で、公益財団法人日本ハンドボール協会（以下・JHA）は、東京 2020 をピークに公益財団法人日本オリンピック委員会（以下・JOC）等の助成金や企業の協賛金等のスポーツ関連予算が大幅に縮小することが予想される。従来の助成金やスポンサーに依存した協会運営から脱却し、ハンドボールの価値を高め、その価値を財源に変える自立経営に一刻も早く転換する必要がある。

［基本方針］

１．ポスト東京 2020 に対応できる自立した経営（組織体制、財務運営の高度化）
　① 意思決定機関（理事会、評議員会等）の実効性向上
　② 業務執行組織としての事務局体制強化
　③ 新たな財源の確保（セールスメニュー開発による新規スポンサーの獲得）
　④ インテグリティを根付かせる継続的な取り組み
２．東京 2020 からパリ 2024 に繋がる強化のレガシー構築
　① 外国人監督導入効果の検証
　② 持続可能な中長期的強化方針の策定
３．競技者の競技体験向上と、生涯ハンドボールと繋がる仕組みづくり
　① 競技者データベースの構築
　② 「ハンドボールと繋がっている人」100 万人に向けた取り組み

［基本方針に基づく各本部・特別委員会等の取り組み事項］

＜本部＞

公益 1　強化に関する事業
　(1) 強化本部

公益 2　普及に関する事業
　(1) 指導普及本部（育成委員会、発掘委員会を除く傘下の委員会）
　(2) 競技・審判本部（競技本部）
　(3) 広報・マーケティング本部（広報）（マーケティング）
　(4) 総務・国際本部（総務本部）（国際本部）
　(5) ハンドボール成長推進本部
　(6) インテグリティ推進本部

公益 3　育成に関する事業
　(1) 指導普及本部（育成委員会、発掘委員会）
　(2) 競技・審判本部（審判本部）

＜特別委員会＞
　1　コンプライアンス委員会
　2　アンチ・ドーピング特別委員会
　3　戦略企画委員会

＜日本ハンドボールリーグ機構＞
　1　日本ハンドボールリーグ機構

公益１　強化に関する事業

(1) 強化本部

【基本方針】

① 東京 2020 に向けて、世界基準のフィジカル・技術＆戦術・メンタル（人間力）の向上を図り、メダル獲得を目指す。

② 確かな「２０２４＆２８強化戦略プラン」の策定と計画的な実行を推進する。
（リオ～東京への強化の振り返りを行い、強化戦略プランへの落とし込みをする。）

③ 将来人材(ハイパフォーマンスディレクターおよびワールドクラスコーチ)の育成を推進する。

【実施計画】

① 〈男子代表〉

１）国内強化合宿
２）海外遠征１（4 月)、海外遠征２（5 月)、海外遠征３（10 月)、海外遠征４（12 月）
３）国内強化試合（6/18・19　※招聘チームおよび会場等については調整中)
４）東京 2020（7/25～8/8　会場：国立代々木競技場)
５）男子世界選手権（1/15～31　開催国：エジプト)

〈女子代表〉

１）国内強化合宿
２）海外遠征１（4 月～6 月）
３）国内強化試合（6 月末　※招聘チームおよび会場等については調整中)
４）東京 2020（7/26～8/9　会場：国立代々木競技場)
５）女子アジア選手権（会期および開催地未定)

② 東京 2020 終了後、リオ～東京の総括をし、得られた知見・経験・課題等を現行の「２０２４＆２０２８強化戦略プラン」へ反映する。

〈男子アンダーカテゴリー代表〉

１）国内強化合宿
２）海外遠征
３）世界学生選手権（6/15～21　開催国：ポーランド)
４）男子ジュニアアジア選手権（7/10～21　開催国：イラン)
５）男子ユースアジア選手権（8/15～26　開催国：カザフスタン)

〈女子アンダーカテゴリー代表〉

１）国内強化合宿
２）海外遠征
３）世界学生選手権（6/15～21　開催国：ポーランド)
４）女子ジュニア世界選手権（6/28～7/12　開催国：ルーマニア)
５）女子ユース世界選手権（8/17～30　開催国：中国)

③ 現行の公的（JOC や公益財団法人日本スポーツ協会、以下・JSPO 等）資格取得システムを整理し、「第１期ハイパフォーマンスディレクター＆ワールドクラスコーチ育成プログラム」の実績をもとに、JHA「指導者のパスウェイ」を明確にし、必要とされる知見および経験を提供出来るシステムを構築する。
（指導普及本部・指導委員会との協働)

【基本方針】

＜強化委員会＞

国内外のハンドボールに関する情報及び関連する情報収集をタイムリーに行い、強化戦略プランに反映し、国際競技力の向上に最適な人・物・金についての施策を管理していく。また、それぞれの過程で得られた知見・経験を将来に活かすためにプロセスの見える化を図る。

≪情報科学専門委員会≫

１）競技運営連絡協議会の開催と協議（3回）

２）情報・戦略に関する活動を中心とし、情報収集、情報の蓄積、フィードバックを効果的・効率的に行うためのシステム構築を推進する。さらに日本代表チームが活用するための情報（日本代表及び各国分析）提供を実施する。また、日本代表チームの活動における継続的な分析や情報を蓄積するとともに、客観的な評価（テクニカルレポート作成）を実施する

≪体力科学専門委員会≫

１）国内体力測定実施・フィードバック事業

関連委員会との連携のもと、国内若手選手の体格・体力測定を連続的に実施することで、発達過程の把握、体力基準作成、傷害予防システムに寄与するデータ作成と提供を推進する。

２）海外体力分析評価事業

国外選手の体格・体力の情報を収集し分析することで、世界水準のハンドボール・フィットネスレベルを可能とする強化システム構築をサポートする。

≪インテグリティ専門委員会≫

１）東京 2020 に向けて、国民の代表に相応しい資質（言行一致）を身につけメダル獲得の一助とする。周りから応援される選手の育成。

２）中長期的に言行が一貫した人材の育成する環境づくりを行う。

３）強化を支える人材育成（スタッフ教育）を推進する。

４）東京 2020 に向けて、国民の代表に相応しい資質（言行一致）を身につけメダル獲得の一助とする。周りから応援される選手の育成。

５）中長期的に言行が一貫した人材の育成する環境づくりを行う。

６）強化を支える人材育成（スタッフ教育）を推進する

【実施計画】

＜強化委員会＞

強化戦略プランの作成・改廃・進捗チェック

１）強化戦略プラン作成プロジェクト

２）JSC・JOC・NF 協働コンサルテーション

３）強化委員会及び強化部会

≪情報科学専門委員会≫

① 男女シニア代表チームのサポート

１）東京 2020（2020.7・8 東京）

２）女子アジア選手権大会（2020.12 アジア）

３）男子世界選手権大会（2021.1 エジプト）

② 男女各カテゴリーのサポート

１）U-24・U-21・U-19 男子代表チーム

２）U-24・U-20・U-18 女子代表チーム

③ 大会レポートのまとめ

１）男子代表 U-24 世界学生選手権大会（2020.6 ポーランド）

２）男子ジュニアアジア選手権大会（2020.7 イラン）

３）男子ユースアジア選手権大会（2020.7 カザフスタン）
４）女子日本代表 U-24 世界学生選手権大会（2020.6 ポーランド）
５）女子ジュニア世界選手権大会（2020.7 ルーマニア）
６）女子ユース世界選手権大会（2020.8 中国）

④　テクニカルレポートの作成
１）東京 2020 からパリ 2024 に繋がるレガシー構築

⑤　東京 2020 情報分析サポートチームプロジェクト

≪体力科学専門委員会≫

①　国内体力測定実施・フィードバック事業
委員会内に設置された「国内測定プロジェクト（リーダー；福田潤委員）」チームにより、主に指導普及本部のアカデミー委員会、ＮＴＳ委員会および発掘委員会との連携のもと、国内ジュニア選手の体力測定を実施していく。

１）ジャパンライジングスタープロジェクト
選抜測定会への協力
体力トレーニングへの協力
分析、結果検討および次年度内容策定および評価基準決定

２）NTS ブロック・センタートレーニング
体力測定　実施と集計
分析、結果検討および次年度内容策定および評価基準決定

３）NTA（アカデミー）トレーニング
体力測定　実施と集計
分析、結果検討および次年度内容策定および評価基準決定

②　海外体力分析評価事業
委員会内に設置された「海外分析プロジェクト（リーダー；明石光史委員）」チームによる、主に欧州プレーヤーをターゲットにした体力分析（形態・基礎体力・その他特異的体力など）を行う。その方法は、各国・各競技団体・各チーム・研究者から公に報告された文書・データ、または提供を受けた文書・データをレビューし、纏めていくものとする。さらに、国際大会等で得られるチームデータ、スタッツにおいて、体力に関わるものを抽出して集約する。また、統計学的な分析等が可能となった時点で、国内測定プロジェクトチームと協力し、国内外選手の体力比較分析などを実施する予定である。

③　成果物
事業計画によって得られた成果は、報告書または資料として、年度末に強化本部へ提出する。また、各関連委員会と協議した上で、必要に応じて成果物の発信方法を決定することもある。

≪インテグリティ専門委員会≫

①　周りから応援される選手の育成。
主な教育テーマ
JHA 行動規範／医事委員会によるアンチ・ドーピング研修／JOC 提供プログラム
主な教育プログラム
代表選手
JOC による研修（1.基礎研修、2.講師派遣研修、3.自由参加型研修、4.オンライン研修）
アンダー代表選手他
JOC による研修ノウハウの提供（動画教材、研修マニュアルなどを用いた研修）

②　選手だけが学ぶのではなく、選手と指導者が一緒になって学ぶ機会を強化計画の中に組み込んでいく。（強化戦略プランへの反映）

③　JOC 及び JSPO 公認指導者資格認定等とリンクした育成システムを検討・構築する。

公益２　普及に関する事業

(1) 指導普及本部（育成委員会、発掘委員会を除く傘下の委員会）

【基本方針】

＜指導委員会＞

JSPO の新指導者制度改定と連動して、JHA としての指導者養成システムの構築を目指す。

① 公認コーチ養成講習会におけるカリキュラム（特に体罰・ハラスメントの撲滅に関わる内容）および講義体系の精査を行う。

② 各都道府県およびブロックにおける指導者養成の意識を高め、指導者講習会が計画的に実施されるよう促すとともに、連絡網を整備し、組織強化を狙う。

③ 幼少期における投動作を始めとする正しい身体の使い方やスキルの習得について、方法論を確立し、指導者に対する伝達を確実に行う。

＜普及委員会＞

東京 2020 以降のハンドボール文化構築を見据えたハンドボール普及活動に取り組む。

① 学校授業におけるハンドボール指導の実践研究に取り組む。

② ハンドボールを生涯スポーツとして取り組む環境を整備するため、学校体育の枠に囚われない普及方法を探ると共に、学校卒業後もハンドボールに関わる枠組みの整備を推進する。

【実施計画】

＜指導委員会＞

１）JSPO 公認指導者資格＜コーチ３＞養成講習会
［JSPO 委託事業］（6 月、2 月）

２）JSPO 公認指導者資格＜免除適応コース＞検定試験（2 月）

３）指導委員会全国研修会（2 月）

＜普及委員会＞

≪学校体育専門委員会≫

１）ハンドボール研究集会（8 月）

２）ハンドボール授業実践研修会（2 月）

３）授業実践校研究委託（6 校）

≪マスターズ専門委員会≫

１）マスターズ専門委員会（4 月、3 月）

２）全国マスターズ大会運営（8 月、12 月）

(2) 競技・審判本部（競技本部）

【基本方針】

① 各カテゴリー、全国・地域別の各大会における円滑な競技運営のための競技役員養成並びに大会競技運営マニュアル等の作成

② オリンピック競技役員（ＮＴＯ）の養成

③ チーム・選手・役員の登録内容（登録金、カテゴリー等）見直しとシステム改修の検討

④ 競技関係の規程・細則・通知など見直し

【目標達成のための具体的な行動】

① 各カテゴリー、全国・地域別の各大会における円滑な競技運営のための競技役員養成並びに大会運営マニュアルの作成

⇒　熊本世界選手権にて競技運営支援を行った経験、資料を基にして、競技運営マニュアルを作成、マニュアルに沿って人材を育成する。また、競技運営連絡協議会を年3回継続して実施し、各ブロック・連盟との連絡強化を図り、統一されたハンドボール感の中で、各カテゴリーに応じた競技運営が行えるよう協議を重ねていく。

②　オリンピック競技役員（ＮＴＯ）の養成

⇒　2019年に開催された熊本女子世界選手権、JAPAN CUP 2019 WOMEN、の経験を踏まえ、東京2020に向けたＮＴＯの選考、依頼、トレーニングを行う。

③　チーム・選手・役員の登録内容（登録金、カテゴリー等）見直しとシステム改修の検討

⇒　2021年度に向けて、登録者、登録チームの増加を目的とした登録料、登録カテゴリーの見直し案を事務局に提案する。また、2019年度から継続して大陸間移籍、国体登録、審判員登録など登録に関する前年度の課題をまとめ、各県協会・チームに発信する。

④　競技関係の規程・細則・通知など見直し

⇒ 競技関係の 旧式となった規程・催告・通知の見直しを行い、最新の情報を公開する。

※2019年度からの積み残しの課題

【実行計画】

①　日本選手権の募集要項や経費分担などの決定を受けて、大会招致・大会運営・大会競技実施など各種マニュアルの作成を行う。**※2020 年度からハンドボール成長推進本部と調整の上実施**

１）10月末までに資料収集（運営協会議会開催・大会の視察含む）

２）2月までに作成会議2回を実施し原案の作成

３）以降常務理事会、理事会への提案、修正を経て3月末完成

②　オリンピック競技役員（ＮＴＯ）の選考と事前研修

１）前年度1月末までに選考、依頼

２）前年度2月に国際ハンドボール連盟（以下・IHF）ガレーゴ氏による選考ＮＴＯメンバーの承認（東京五輪組織委員会を通じて）

３）2020年7月開幕までに、オリンピック直前の実践トレーニング

③　登録システム並びに登録規程の見直しと提案

１）競技運営連絡協議会の開催と協議（3回）

２）各種問題点と解決策のまとめ

３）まとめと事務局、常務理事会への提案

④　競技関係の規程・細則・通知など見直し

１）旧競技関係規程・細則・通知の洗い出し、※競技運営連絡協議会にて実施

２）課題のまとめと見直し

３）新しい規程・細則・通知の再通知（公開）

⑤　その他の検討事項

１）検定業者懇談会（3 月）

(3) 広報・マーケティング本部（広報）

【基本方針】

①　プレスへの積極的な情報発信の継続

②　大会、試合のインターネット中継の増加

③　ホームページ（以下・HP)、および SNS の役割整理と拡充

【実施計画】

①　プレスへの積極的な情報発信の継続

ハンドボールに比較的詳しい記者も少しずつ増加してはいるが、東京 2020 を機に各社とも運動部記者が払底している。そのため、ハンドボール取材が初めてと言った記者も多い。そうした記者の方々への丁寧なアプローチを繰り返して、ハンドボールへの理解、親近感を持っていただく。

一方で、TV のドキュメンタリーやバラエティ番組の出演も次第に増えている。東京 2020 に向け、TV 局、新聞社からの取材依頼に積極的かつ、丁寧に応えていく。

② 大会、試合のインターネット中継の増加

東京 2020 のハンドボール中継はまだ詳細が見えない。本来ならば、日本選手権、JAPAN CUP 等の主要大会は極力、地上波 TV での露出を増やしたいが、現時点ではハンドボールにそこまでの実力、TV 局にとっての価値は無い。当面はインターネット中継の機会を増やす一方で、競技解説や、協賛社対応に工夫を凝らし、視聴者・関係者の満足度を高めていく。

③ HP および SNS の役割整理と拡充

HP、Facebook、twitter、Instagram を併行して活用しているが、それぞれの役割を整理する。HP には、JHA のポータルサイトとして、公式情報や関係者向け資料の発信の他、ファン、プレス、協賛社向けのアーカイブ機能を充実させる。

Facebook、twitter、Instagram は主にファンへのリアルタイム情報発信を中心とするが、併せて代表選手などとの交流メディアとして、延べフォロワー数 3 万を目指す。

広報・マーケティング本部（マーケティング）

【基本方針】

① 既存協賛社の継続獲得
② 新規協賛メニューの開発
③ 新規協賛社の獲得

【実施計画】

① 既存協賛社の継続獲得

最終的な協賛依頼、プレゼンテーションは、各社の予算策定期に併せて、2020 年 10 月以降に実施するが、それ以前に各社に対して積極的な協賛継続依頼の意思表示が、折に触れて必要となる。既に各社への根回しは開始しているが、6 月の JAPAN CUP、7 月の東京 2020 での日本代表のパフォーマンスと共に、JHA 幹部を挙げてのアプローチを実施する。

併せて、日本ハンドボールリーグ機構（以下・JHL）との整合性についても充分に留意し、相互補完を図る。

② 新規協賛メニューの開発

女子世界選手権や東京 2020 という目玉となる国内開催の国際大会が無くなる中で、日本最高峰の大会である日本選手権大会に加えて、大学生や高校生、中学生など次世代の有望選手が出場する大会も協賛メニューに加えていく。また、JHA からの価値提供型メニューを構築する過程で、インターネット中継の特別協賛の拡充や、協賛各社と代表選手との接点を増やすことなども検討していく。併せて SNS 等による協賛各社への価値創造を急ぐ。

③ 新規協賛社の獲得

JHA 幹部、広報・マーケティング委員会や広告会社などの知見、ネットワークを総動員し、新規協賛社の獲得に当たる。JHA のフル協賛のみに拘らず、個別の大会や、世代代表など融通の利くメニュー提示でのプレゼンテーションを図る。

(4) 総務・国際本部（総務本部）

【基本方針】

① 加盟団体とのコミュニケーションの促進。
② 適正且つ円滑な業務執行と業務の効率化を図る。
③ 諸会議の円滑な運営と効率化を図る。
④ 財務状況改善。
⑤ 予実管理の徹底

【実施計画】

① 加盟団体との定期的な意見交換の場を設ける。
② 業務の棚卸しを実施し、業務改善実施。
③ ＴＶ会議の推進。
④ 新たな財源確保と各種事業内容の投資効果を検証。
⑤ 予算執行の進捗管理の徹底を図る。

総務・国際本部（国際本部）

【基本方針および実施計画】

① IHF、アジアハンドボール連盟（以下・AHF)、東アジアハンドボール連盟（以下・EAHF）等との連携および関係強化による国際力向上
② 各国 NF との連携および関係強化による強化環境・指導普及環境の強化
③ 東京 2020 の機会を活用した国際渉外活動の強化
④ 国際的手続き等のルーティーンの停滞なき実施および環境強化
⑤ 国際人材の養成と組織基盤強化
⑥ 国際貢献への取り組み
⇒ハンドボールの力で世界を変える、スポーツ・フォー・トゥモロー等を活用した国際交流

(5) ハンドボール成長推進本部

【基本方針】

① 国際、国内大会への JHA 関与度を向上させる
② 国内で行う国際、国内大会の収益および集客の増加
・大会開催地とのスポーツによる街おこし
③ ビーチハンドボールの大会事業の企画
④ 女性ハンド関係者が活躍できるための環境づくり

【実施計画】

① 大会の知名度向上活動を実施、開催地および開催ブロックを巻き込んだ大会 PR の活動
→開催地企業への大会アピールによる資金づくり（双方にメリットのある活動）
・大会毎のプロジェクトチーム体制づくり。
→各常務理事の業務内容による役割分担の明確化と進捗フォロー
・集客のアンケート調査による問題点の抽出と対応策の検討および対策
② 大会開催地とのタイアップによるイベントの共有と共存を行うことで、ハンドボール関係者以外の集客増を狙っていく。また、地元 TV 局や新聞社への定期的な訪問による競技や選手の PR を行う
③ ビーチハンドボールの大会企画と運営を行い、認知度を高め競技人口の拡大に繋げる

④ 女性ハンドボール関係者が活躍できる環境づくりを行う。
→日本リーグチームからのセカンドキャリアとして所属チームへの理解活動
→引退選手への呼び掛けによる意識付けと業務内容を明確化する。

(6) インテグリティ推進本部

【基本方針】

「ハンドボールが様々な脅威により欠けるところなく、価値ある高潔な状態」すなわち「インテグリティ」の保護・強化に向けて各関係部署と連携して活動を行う。

【実施計画】

＜医事委員会＞

① 医事委員会（２回/年）

1）女性医師、産婦人科、脳神経外科などの委員を加え組織強化を図る。

2）強化部、競技医事部、指導・普及医事部、アンチ・ドーピング教育・啓発部の機能的なワーキンググループの編成。

② 帯同ドクターの派遣

1）A 代表および各アンダーカテゴリー代表チーム、ビーチハンドボール代表チームの海外派遣時の帯同および、事前合宿でのメディカルチェックなどの活動を行う。

2）国内大会（要請時、必要時）に、マッチドクターの派遣を行う 。

3）Japan Rising Star Project（以下・JRSP）拠点県合宿などの事業へ、スポーツドクターの派遣を行う。

③ メディカルチェック事業

1）おりひめジャパンフィジカルクリニックを実施する。

2）各カテゴリー代表チームでのメディカルチェック活動を行う。

3）栄養部門にて食育活動を行う。
（各カテゴリー・NTS・アカデミーなどへ管理栄養士を派遣する。）

4）歯科部門にて、健診およびマウスピースの作成を行う。

5）トレーナー部会と連携し、メディカルスタッフ育成を行う。

6）NTS 発掘育成運営委員会への参加、実施プログラムの立案支援を行う。

④ 安全管理

1）ホームページに、ハンドボールに関連する傷害／外傷のコンテンツを充実させる。

2）全国のブロックに、医事およびアンチ／ドーピング関連の部署／責任者を設置／任命を依頼して組織の改編を行う。

3）各代表の海外遠征時および、国内各種大会において必要時には AED を準備携帯する。

⑤ 東京 2020 競技役員（医療関係）の派遣

1）医師、歯科医師、看護師、理学療法士、アスレチックトレーナーの派遣。

２．　公益３　育成に関する事業

(1) 指導普及本部（育成委員会、発掘委員会）

【基本方針】

＜育成委員会＞

小・中学生におけるハンドボール環境をより一層充実させるために、一貫指導システム等の更なる拡充・発展を目指すとともに、東京 2020 以降の日本ハンドボール界を見据えた選手育成方策について、具体的な事業展開を施行していく。

＜発掘委員会＞

JRSP において、2024・2028 に活躍が期待される将来性豊かなタレントを発掘育成することをねらいとし、育成委員会、各都道府県協会と連携を図りながら発掘したタレント候補生の育成環境の整備を進める。

＜ＮＴＳ・ＮＴＡ委員会＞

① 選手の早期発掘・早期育成、一貫指導システムを柱として、将来に渡るハンドボール選手の個人技能・能力のレベルアップを図り、世界に通じる選手としてのスキル教育と人間力を育成するとともに、優秀指導者の指導力研鑽を同時に行う。

② ＮＴＳによって選抜された優秀な選手を対象に、専門的で高度な個人技能・能力の育成を図る。日本はもとより海外においても活躍できるような国際感覚や教養を身につける。加えて、ＮＴＳ選考選手以外から特化プログラム（長身選手、左利き、ＧＫなど）を組み、特殊な能力・ポジションを有する人材の発掘育成も実施する。

【実施計画】

＜育成委員会＞

≪小学生専門委員会≫

① 小学生専門委員会（5、10、2 月）

② 全国Ｕ－１２指導者研修会（10 月）

③ 日韓小学生親善交流事業（8 月）

≪中学生専門委員会≫

① 中学生専門委員会（8、12、3 月）

② Ｕ－１６日韓交流親善試合（10 月）

＜発掘委員会＞

① JRSP 第３期生中央合宿（5 月、10 月）

＜ＮＴＳ・ＮＴＡ委員会＞

① ＮＴＳブロックトレーニング［ブロック委託事業］（8 月～9 月）

② ＮＴＳセンタートレーニング（1 月）

③ ＮＴＡアカデミー合宿（4 月、6 月、10 月、2 月）

(2) 競技・審判本部（審判本部）

【基本方針および実施計画】

① 組織の改編・改善と指導体系の強化

1）審判本部組織における各専門委員会の充実と機能的なワーキンググループの編成

2）ブロック審判長ならびに都府県(北海道各地区)審判長の指導力向上と，指導体系の強化

② レフェリーの発掘と効果的な育成

1）レフェリーアカデミー・レフェリーコース・上級審査会・各連盟と連携した発掘・育成

2）女性レフェリーの発掘・育成（全体の 20%、A 級 10%、並びに各ブロックより全日本大会担当の女性レフェリーの選出と配当を積極的に行う）,中長期的には、レフェリー登録者全体の女性レフェリーの割合を 30%とすることを目標とする。

3）上級レフェリーの登録者が少ない都道府県に対する支援の充実（審判本部長が出向き、研修会の開催）

4）ビーチハンドボールレフェリーの発掘と育成

③ 競技規則と適切な競技運営の徹底

1）各地講習会および全日本大会における指導内容の統一

2）リスペクトされる存在を目指し，強化および指導・普及委員会との連携を強化

3）東京 2020 を受けた、次期競技規則変更に関する情報収集

④ 国際基準に沿ったトップレフェリーの強化

1）トップゲームにおける国際基準の判定を徹底させるため，技術・情報の分析および迅速な伝達

2）世界に通用する国際審判員およびその候補者、および JHA 指名レフェリーに対する教育プログラムの構築

⑤ ポスト東京 2020、更にその後を見据えたレフェリーの育成

1）次世代レフェリーの育成を目指した研修会を実施

2）レフェリーの海外研修派遣を実施

＜特別委員会＞

1　コンプライアンス委員会

【実施計画】

① コンプライアンスに関する方針、体制、関連規程類の整備および実効性の検証
規程間の整合性を検証して体系的な整備を進め、加盟団体を含めた定着化を図る。

② 法令等違反行為の調査および対応方針の策定
外部弁護士との連携を含めた体制の強化と、加盟団体との連携方針を策定する。

③ コンプライアンスについての啓発
法令等違反行為の未然防止に向けた取り組みを開始する。

2　アンチ・ドーピング特別委員会

【実施計画】

① アンチ・ドーピング特別委員会（２回/年）

② アンチ・ドーピング特別委員会の充実

③ JHA の関係者全てへの意識徹底のため、アスリート委員、審判本部、指導普及本部等から委員を選出し組織強化を行う。

④ 日本アンチ・ドーピング機構（JADA）と協力し、ドーピング検査（競技会検査）時に競技団体代表者（NFR）の派遣を行う。

⑤ アンチ・ドーピング啓発活動

１）アウトリーチ活動

・高松記念杯全日本社会人選手権・・・・・・・・・・(2020 年 5 月)
・トレーナー研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・(2020 年 6 月)
・ジャパンオープントーナメント・・・・・・・・・・(2020 年 7 月)
・全国中学校大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・(2020 年 8 月)
・国民体育大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(2020 年 10 月)
・高松宮記念杯全日本学生選手権・・・・・・・・・・(2020 年 11 月)
・日本選手権大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・(2020 年 12 月)
・JOC ジュニアオリンピックカップ・・・・・・・・・(2020 年 12 月)
・NTS センタートレーニング・・・・・・・・・・・・(2021 年１月)×２回

２）アンチ・ドーピング研修会

・ジャパンオープントーナメント・・・・・・・・・・(2020 年 7 月)
・全国高等専門学校選手権大会・・・・・・・・・・・(2020 年 8 月)
・高松宮記念杯全日本学生選手権・・・・・・・・・・(2020 年 11 月)
・日本選手権大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・(2020 年 12 月)
・各代表候補選手（アンダーカテゴリー）
※2020 年 4～７月の可能な限り初回合宿時

３）e ラーニングの義務および義務化

・代表およびアンダーカテゴリーの選手とスタッフ。
・各種全国大会参加選手および、スタッフの受講の義務化。

3　戦略企画委員会

【基本方針】

ポスト東京 2020 を見据え、ハンドボールの価値向上に向けた取り組みを行う。
ハンドボール人口の最大化のため、競技者・観戦者・支援者が生涯にわたってハンドボールを楽しむことができる環境づくりを行う。

【実施計画】

① CRM 戦略（競技者データベースの構築）

情報管理基盤としての JHA アプリ（仮称）を新たに構築し、ハンドボール人口拡大に向けた情報（試合結果、写真・動画を含む）を一元的に保持し、競技者の競技体験向上を図る。
競技者、元競技者、父兄やファン等の支える人を含めた「ハンドボールと繋がっている人 100 万人」の実現を目指す。

② ビーチハンドボール

近い将来にオリンピックに採用される可能性のある有力候補競技との認識の下、ハンドボール成長推進本部と連携して日本国内における普及を加速させる。
IHF と連携し、東京 2020 期間中にショーケース開催の可能性を探る。

③ ビジネスインキュベーション

スポーツ庁主催の「SPORTS BUSINESS BUILD」の実装プロジェクトに参画し、あらゆる産業との融合により新たなサービス・価値の創出を図り、スポーツの成長産業化を実現していく。

＜日本ハンドボールリーグ機構＞

1　日本ハンドボールリーグ機構

［2020 事業概要］

日本ハンドボールリーグは 2020-2021 シーズンで第 45 回となり、東京 2020 後の 8 月 29 日に開幕する。レギュラーシーズンの男子は、東京トライスターズを新たに迎え全 11 チームでの開催、女子は昨シーズンに引き続き 9 チームでの開催となる。

チャレンジ・ディビジョンは、昨年度に引き続き男子を東西ブロックに分けて開催する。特にこの事業は、2021 年度以降のリーグ編成を考察するうえで大変重要なシーズンと位置付ける。

ＪＨＬジュニアリーグは、東京 2020 が開催される期間に配慮し、例年の８月開催から時期を変更、東ブロックが三重県（12 月）、西ブロックが佐賀県（11 月）で実施する。このジュニアリーグは、ＪＨＬがチームと協同でハンドボールの普及と発掘育成に位置付ける事業であるが、規模の拡大を念頭に大会の開催方式や参加チームの在り方など、［普及］・［発掘育成］・［地域密着］をキーワードに、今までを振り返りつつ 2021 年度以降に向けたこの事業の改革を実施していく。

日本ハンドボールリーグ機構は、設立する一般社団法人日本ハンドボールリーグでの運営へと 2021 年度から移行する予定の中で、リーグ法人組織におけるガバナンスの構築やリーグ全体の将来構想・中期ビジョンの策定を進めている。日本ハンドボール界は、東京 2020 で醸成されたスポーツ界全体の機運を受けて、将来構想・中期ビジョンの実現に向けた組織再編やリーグ再編を進め、日本ハンドボール界が次なるステップへと進むために 2020-2021 シーズンは大変重要なシーズンとなる。

【基本方針】

① ハンドボールのトップリーグとしての競技会開催
　１）フェアプレー・リスペクトの浸透
　２）競技インテンシティーの追求
　３）来場者促進と満足度の向上

② ＪＨＬインテグリティの構築
　１）組織ガバナンスに基づく事業運営
　２）規約規程の整備と充足
　３）事業計画に基づく適切な財務支出

③ ハンドボール環境の整備強化推進
　１）次世代につなげるＪＨＬジュニアリーグの実施
　２）将来構想の中でのチャレンジ・ディビジョン位置づけの探求とこれまでの振り返り

④ 協会と連動したマーケティング対応
　１）協賛各社への協賛メリットの提供と次のシーズンへとつなげる取り組みの実施
　２）セールスコンテンツ創りと積極的な協賛活動

事務局

- 事務局基盤の強化と委員会部会運営
　・広報、プロモーションに係るシーズンスケジュールの立案
　・JHL マーケティング確立のためのコンテンツおよびクライアントメリットの整備
　・各種規程改訂と決裁権限に基づく事務局運営
- 予算管理および経営資源配分に係る情報管理
　・月次予算管理の実施
　・適切な予算執行をおこなうための事業管理システムの確立
- 日本ハンドボールリーグ価値向上の向けた業務および環境改善

・協賛クライアントの契約継続のための定期フォローの実施

➢ 2021 年新法人稼働に向けた計画立案

・法人化設立準備委員会への企画提案

・各種の企画立案と成果物の定義の策定（メディア、マーケティング、中長期ビジョン）

【事業計画］

1. 競技会開催

大会名	開催期間	開催会場
第 45 回日本ハンドボールリーグ（レギュラーシーズン男子）	2020 年 8 月 29 日(土)～2021 年 2 月 28 日(日)	各ホーム会場および第三地域
第 45 回日本ハンドボールリーグ（レギュラーシーズン女子）	2020 年 8 月 29 日(土)～2021 年 2 月 28 日(日)	各ホーム会場および第三地域
ＡＮＡ ＣＵＰ第45回日本ハンドボールリーグプレーオフ	2021 年 3 月 12 日(金)～3 月 14 日(日)	駒沢オリンピック公園体育館
第 10 回ＪＨＬジュニアリーグ ＜東ブロック＞	2020 年 12 月 25 日(金)～12 月 27 日(日)	AGF 鈴鹿体育館（三重県鈴鹿市）
＜西ブロック＞	2020 年 11 月 21 日(土)～11 月 23 日(月)	SAGA サンライズパーク総合体育館（佐賀県総合体育館）(佐賀県佐賀市)
＜順位決定戦＞	2021 年 3 月 14 日（日）(予定)	駒沢オリンピック公園体育館
第 12 回チャレンジ･ディビジョン		
＜男子・東ブロック＞	2020 年 9 月～2021 年 2 月	未定（募集後チーム所在地での開催）
＜男子・西ブロック＞	2020 年 9 月～2021 年 2 月	未定（募集後チーム所在地での開催）
＜男子順位決定戦＞	2021 年 2 月（土、日の 2 日間での開催）	未定
＜女子＞	2020 年 9 月～2021 年 2 月	未定（募集後チーム所在地での開催）

2. 研修会およびカンファレンス開催

名称	開催期間	開催会場
開催地責任者研修会	2020 年 7 月 4 日(土)	都内
新人研修会	2020 年 5 月 23 日(土)～24 日(日)	都内
リーグ担当審判選考会	2020 年 4 月-5 月	都内
リーグ担当審判研修会	2020 年 8-9 月	都内
マッチオフィシャル・TD 研修会	2020 年 8－9 月	全国各地
開幕前プレスカンファレンス	2020 年 8 月 24 日(月)	都内
プレーオフカンファレンス	2021 年 3 月 8 日(月)	都内

3.　会議および委員会等開催

会議・委員会名	開催時期	開催会場
オーナー懇談会	2020 年 6 月 19 日(金)、12 月 11 日(金)	都内
ＧＭ会	2020 年 5 月 22 日(金)、8 月 21 日(金)、10 月 16 日(金)、2021 年 2 月 5 日(金)	都内
常任委員会	隔月（奇数月開催）年 6 回 （5 月、7 月、9 月、11 月、1 月、3 月）	都内
リーグ運営委員会	2020 年 4 月 18 日(土)、7 月 5 日(日)、12 月 19 日(土)、2021 年 3 月	都内
競技・審判委員会	未定	都内
規律委員会	都度開催	都内
リーグ部会		
企画部会	2020 年 5 月、7 月、2021 年 3 月	未定
普及部会	2020 年 9 月、2021 年 1 月	都内
記録部会	2020 年 6 月、2021 年 2 月 28 日（日）	都内
ＪＨＬ法人設立準備委員会	年４回	未定（左記の他ＴＶ会議あり）
監督会議	2020 年 8 月 24 日(月)、 2021 年 3 月 8 日(月)	都内